

3 一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センターの活動について

ホームページの説明で分かりにくいところがありましたか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 特にない	6	4	10	8
2 ある	0	0	1	1
未回答	0	0	1	0

○集計様式の記入方法の説明の中で、2つ以上の調査項目を組み合わせて集計する場合、調査項目の間を区切る「/」や「・」の記号の優先順位や、表の作成方法の説明が難しい
○共同研究として申請する場合に、どのような手続き・書類が必要なのか分かりづらかった

申請に必要な情報をホームページからすべて入手できましたか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 入手できた	6	4	10	8
2 説明を追加してほしいことがある	0	0	1	1
未回答	0	0	1	0

○回帰モデル等での申請書の書き方を詳しく記載してほしい
○共同研究をする場合に、どのような手続き及び書類が必要になるのかを、詳しく記載してほしい

利用者説明会で説明してほしかったことがあれば、具体的に記入してください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	3	0	1	1
未回答	3	4	11	8

○乗率の使い方に慣れていない人も多いため、参考書などを示したらよいと思う

社会科学統計情報研究センターの利用者支援活動について、何か改善してほしいことがありますか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 特にない	5	4	10	8
2 ある	1	0	1	1
未回答	0	0	1	0

○提供調査の拡大をしてほしい
○より多くの統計(ミクロ)並びに同一統計のより多くの年度が利用できるようにしてほしい
○2つを越える申請は避けるという制限をなくす方向で検討していただきたい

あなたは、この試行的提供システムについて、あなたの知り合いの方にも知らせていますか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 知らせている	6	4	10	8
2 今後、知らせたいと考えている	0	0	1	1
3 特に知らせる予定はない	0	0	0	0
未回答	0	0	1	0

前問で1、2と答えられた場合、どのような方に知らせたか、または知らせたいか具体的に記入してください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	6	4	11	8
未回答	0	0	1	1

- 同じ専門分野の研究者、学生(8)
- 学会や研究会のメンバー等(6)
- 親しい研究者(5)
- 同じ大学で、マイクロデータに興味を持つ研究者達(4)
- 大学の同僚や他大学の教員等(3)
- 共同研究の可能性のある研究者等に紹介したい

あなたは、社会科学統計情報研究センターで秘匿処理済マイクロデータの提供を開始したことをどのようにして知りましたか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 学会でのパンフレット配布やお知らせで	1	0	2	0
2 センターのホームページで	1	1	6	3
3 個人的な知り合いから	2	2	3	5
4 その他	2	1	1	1
未回答	0	0	0	0

前問で3、4と答えられた場合、どのような経緯で知ったか具体的に記入してください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	3	3	4	6
未回答	3	1	8	3

- 研究会で(4)
- 共同研究者から(2)
- セミナー報告者から(2)
- 研究者同士の雑談から(2)
- 科研費シンポジウム「個票データの秘匿措置と開示データの利用に関する研究」への参加
- 大学の職員から
- (財)統計情報研究開発センターから
- 総務省統計局から
- 大学の同僚から
- 学会から

4 研究成果等について

当初予定していた通りの研究成果を挙げることができましたか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 予定通りの成果があった	2	4	7	3
2 予定通りの成果はなかった	1	0	0	3
3 どちらともいえない	3	0	4	3
未回答	0	0	1	0

前問で2または3と答えた方は、その理由を具体的に記入してください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	4	0	4	6
未回答	2	4	8	3

- 時間不足および当初想定していなかった集計をすることができなかった
- 海外出張でデータ利用可能期間が短くなってしまったため
- 生活時間と生活行動を結びつける分析が、乗率の問題なしにできると、当初考えていた。行おうとしていた分析のための計算手法が、利用したソフトで可能でなかったことが、実際に分析をはじめてわかった

○今回初めてマイクロデータを分析したため、分析の進め方にも不案内であるし、得られた結果に対する洞察力も不十分である。従来の平均値の時系列データを利用しての実証結果とは、かなり趣きの異なる結論が得られた部分も少なからずあった。(分析がまちがっているのではないと現在のところは判断しているが)

- 当初考えていた分析までは実施できなかった
- 推計の途中でデータ使用期限が切れたため
- 申請内容以外の分析も行いたかった
- 属性によっては、予想していた傾向・大きさでのパターンの違いが見られなかったため
- 時間が足りなかったことと、申請した推計方法の問題等
- 適切なモデルを発見するに至らなかったからだが、こちらの準備不足
- 集計を行っている中途になって、申請した様式では意味のある結果は得られず、申請したものとは異なる様式の集計をすべきであるとの結論に達したケースがいくつもあった。申請したものとは異なる様式での集計を再度申請し、集計しなおさないことは、一定の価値のある論文にならない。また回帰分析についても、申請した様式に含めていなかった説明変数を加えることが適切と思われる場合が出てきた
- 予想に反して、分類事項毎の差異が少なかった
- データを分析可能な状態にするまでの操作にかなり時間を要したため、半年間の利用期間が短かった
- 使用申請書に記載された研究計画の一部については成果が得られたが、予定していた分析のすべてをおこなうことは、今回できなかったから

今回は就業構造基本調査、全国消費実態調査、社会生活基本調査の3つの調査のマイクロデータを提供していますが、これらを近いうちに再度分析したいと思っていますか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 当面、予定はない	0	0	0	0
2 ある	6	4	11	9
未回答	0	0	1	0

- 全国消費実態調査(18)
- 就業構造基本調査(6)
- 就業構造基本調査および全国消費実態調査(3)
- 3種類すべて(2)
- 社会生活基本調査および就業構造基本調査

今回は3つの調査について、最近3回分のデータを提供しましたが、それ以外の年次についての提供も希望しますか。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
1 特に希望しない	2	1	2	4
2 希望する	4	2	9	4
未回答	0	1	1	1

- 全国消費実態調査 2004年(9)
- 全国消費実態調査 1984年(3)
- 全国消費実態調査 1979年(2)
- 全国消費実態調査 古い年次
- 全国消費実態調査 1959、64、・・・(各5年次)
- 全国消費実態調査 1989年、1974年
- 就業構造基本調査 1987年(4)
- 就業構造基本調査 1982年(3)
- 就業構造基本調査 古い年次(2)
- 就業構造基本調査 1979年
- 社会生活基本調査 1986年
- 選択肢を拡げる方向での拡張をお願いします

これらの3つの調査のほかにマイクロデータが提供されるとしたら利用してみたい統計がありますか。もしあれば、調査の名称を列記してください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
賃金構造基本統計調査			1	4
労働力調査	1	1	2	3
労働力調査特別調査			1	
所得再分配調査				1
家計調査	1	1	2	2
国民生活基礎調査				2
国勢調査		1	1	1
自動車輸送統計調査	1		1	
パートタイム労働者総合実態調査				1
21世紀成年者縦断調査				1
事業所・企業統計調査	1		2	
サービス業基本調査	1			
住宅・土地統計調査	1			
法人企業統計調査			1	
未回答	3	2	5	2

5 ミクロデータ提供の在り方等について

今回の試行的なマイクロデータ提供について、ご意見を自由にお書きください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	6	4	10	9
未回答	0	0	2	0

- マイクロデータ提供を今後も継続してほしい(4)
- データ提供は、非常によい試みだと思う(2)
- 申込から提供までの時間短縮及び利用分析時間の延長をしてほしい(2)
- 研究の発展にとって、大変有意義である(2)
- マイクロデータに接する機会を幅広く与えることはよいことである
- 利用者から提出された論文等について、一覧にして公開してほしい
- 変数名を含めたCSVデータが非常に使いやすかった。また、符号表などの書類がしっかりと整備されていた
- 日本で実証分析が行えるようになり、意義深かった
- 大量のデータを加工するためのプログラムが、研究を進める上で大いに役立った
- 多くの研究者に、研究の機会を平等に与えるという意味で、非常に良いと思う
- このマイクロデータ提供により、初めて日本に関する実証分析が可能となり、有意義であった
- 事前の申請に含まれていない集計は研究発表に使えないため、利用開始後でも追加・修正を認めてほしい
- リサンプリングデータでの提供が、継続して実施されていることを高く評価したい。日本の先端研究を担う若手研究者、特に大学院生にも、共同研究者の資格与えてほしい
- データ整備されていて、使いやすかった
- 研究の発展にとって、マイクロデータの利用は非常に有益であるので、制度化してほしい
- マイクロデータによる実証分析の重要性が高まっており、活動を評価する
- マイクロデータの提供を制約を少なくし公開してほしい
- 公募というかたちで、学術的な目的でのマイクロデータの利用が可能になったことを評価する
- マイクロデータによる分析が可能となることは、日本の研究水準を引き上げる上で非常に大きな役割を果たしていると思う。手続きの公明正大さ、簡素である点など、高く評価されるべきだと思う。今後、他の省庁の統計も提供してほしい。提供期間を1年程度に延長してほしい。また、民間研究者も利用の範囲を広げてほしい
- 今回の試行的提供によって、個々の研究者にとってマイクロレベルの実証分析をおこなう機会が開かれただけでなく、わが国のマイクロデータ分析のさらなる進展も期待できる。今後も政府統計マイクロデータを継続的に提供してほしい
- これまで一部の人だけしか利用できなかったマイクロデータがこのように使えることと、抽出率の高いマイクロデータが提供されていることを評価する

将来のマイクロデータ提供の在り方について、ご意見を自由にお書きください。

	H16.11	H17.4	H17.10	H18.4
記入有	6	4	10	7
未回答	0	0	2	2

- 利用対象者を広げてほしい(5)
- 今後も提供し続けてほしい(4)
- 提供される統計の種類、年度をもっと拡大してほしい(3)
- 地域別の分析などをもっと詳細に行えるようにしてほしい(3)
- 集計様式の追加・修正をみとめてほしい。(2)
- 申請の回数を増やしてほしい。(2)
- このような提供方式を制度化してほしい
- 官庁統計のマイクロデータ提供を専門とする機関：データアーカイブを設立してほしい
- マイクロデータの提供により、理論・実証研究が著しく推進されると期待している
- 秘匿を強化したデータセットを用意し、自由に使用させてほしい。その上であらためて抽出率の高いデータの利用申請をするようにしてほしい
- パソコンからデータをダウンロードして使用できるようにしてほしい
- マイクロデータ提供方法を続けてほしい。また、各調査の利用可能年度を増やしてほしい
- JGSSのような調査を、公的機関が10万人くらいの規模で毎年実施するようになってほしい
- 秘密保持とデータの公共性のバランスをどのように取るか、が大きな問題であるが、ランダムな誤差の付加やスワッピングを加えた場合、エラーへの対応が複雑になるため、やめてほしい
- マイクロデータの提供と利用が多くの人に普及してほしい
- リサンプリング、誤差の導入等によって一般の学生も含めて自由に使用できるマイクロデータが整備され、さらに厳密な分析のために必要であれば研究者が許可を受けて利用できるという仕組みを導入してほしい
- 「試行」から「本格的」提供の具体的可能性を探ってほしい
- 各省庁のマイクロデータをなるべく研究者に開放してほしい
- マイクロデータの優秀論文の表彰などがあるとよい
- 海外のように自由にweb上から利用可能な状態にしてほしい
- 投稿、査読、再投稿などのプロセスに配慮したかたちで利用できる環境を提供してほしい
- 現在試行的に提供されているマイクロデータ以外にも多くの政府統計マイクロデータが提供してほしい。また、申請する機会をさらに増やし、利用者がいつでも申請できるようにしてほしい。さらに、マイクロデータの申請から提供までの期間を短縮してほしい。マイクロデータ分析においては、本分析の前に予備分析をおこなうことが可能なように、より抽出率の低いサンプルデータが自由に利用可能にほしい

匿名標本データ「第Ⅱ期試行運用」における利用者アンケートの概要

匿名標本データの「第Ⅱ期」の平成18年11月、19年4月、19年7月、19年10月募集の4回分の利用者に対するアンケート（計43件）の主な結果は、次のとおりである。

1 利用者の資格・利用手続等について

- 申請時期を任意にしてほしい
- 申請手続きの簡素化
- 試行錯誤を含む集計様式を記載するのは負担なので、省力化してほしい
- 集計様式を簡略化してほしい
- 集計様式の書き方の説明がわかりにくかった
- 集計様式の作成方法がわかりにくかった
- 提供後の集計表の追加・変更を認めてほしい
- 分析内容の変更を認めてほしい
- 集計表の変数の設定をどの程度細かくすればいいか分からなかった
- 大学の助手、公的な研究機関の研究員、短期大学の教員など申請者の範囲を広げてほしい
- 海外の研究者の利用を認めてほしい
- 共同研究者の位置づけについてよくわからなかった
- データの受け取りの簡素化をしてほしい
- 2度目の利用のときには、説明会への出席を免除してほしい
- 説明会の場所を東京以外にも広げてほしい

2 提供データの形式等について

- SPSSなどに対応した形式のデータで提供してほしい
- 固定長テキスト形式のデータで提供してほしい
- 地域をより詳細にしてほしい
- トップコーディングによって、所有格差や居住格差の分析で制約を受けた
- トップコードについて、該当する数値の平均値を入れてほしい
- 年齢をトップコーディングしてほしくない

3 リサンプリングと誤差の付加等の比較について

- 下記のいずれのデータを使いたいか
 - 抽出率80%のリサンプリング・データ (36)
 - 誤差の付加やスワッピングを行った全データ (5)
 - どちらでもよい (1)
- リサンプリングの率と利用の希望
 - 20%でも利用したい (18)
 - 50%なら利用したい (7)
 - 50%以下では利用しない (10)
 - 分からない (9)
- サンプルが多くなければできない分析もあるが、20%でも分析可能な研究課題もあると思う
- 抽出率が少ないと誤差、信頼性の確保が不安
- リサンプリングデータの原データに近い
- なるべく高いリサンプリング率がよい

4 試行的提供を知った方法について

- 学会でのパンフレット配布やお知らせで (7)
- 個人的な知り合いから (22)
- センターのホームページ (15)

5 提供データ（全国消費実態調査については、最近4回分、それ以外の3つの調査について、最近3回分のデータ）以外の希望年次について

- 就業構造基本調査 …… 過去の年次、最新年次
- 全国消費実態調査 …… 過去の年次
- 社会生活基本調査 …… 過去の年次、最新年次
- 住宅・土地統計調査 …… 過去の年次

6 利用したい統計について

- | | |
|------------|-----------------|
| 国勢調査 | 国民生活基礎調査 |
| 事業所・企業統計調査 | 賃金構造基本統計調査 |
| 家計調査 | 所得再分配調査 |
| 労働力調査 | 21世紀成年者縦断調査 |
| 雇用動向調査 | パートタイム労働者総合実態調査 |
| 毎月勤労統計調査 | 高齢者就業実態調査 |
| 職業安定業務統計 | 自動車輸送統計調査 |
| 人口動態調査 | 女性雇用管理調査 |
| 法人土地基本調査 | 個人企業経済調査 |
| 全国母子世帯等調査 | 通信利用動向調査 |
| 出生動向基本調査 | 科学技術研究調査 |
| 工業統計調査 | 経済産業省企業活動基本調査 |
| サービス業基本調査 | |

7 ミクロデータ提供のあり方等について

- 多くの研究者に平等に研究の機会を与えることは非常によい
- 民間の研究者にもミクロデータ利用の機会を広げることが希望
- 一部の学者、研究者だけでなく、多くの人に利用資格を与えてほしい
- ミクロデータの分析が可能になることは、日本の研究発展に大きな役割を果たす
- 今後も継続的に提供されることを望む
- このような提供方式が制度化されることを希望する
- 利用者がいつでも申請できるようにすることや、申請から提供までの期間を短縮することを望む
- 申請から提供までの時間短縮
- 募集回数を増やしてほしい
- データの種類や年次を拡充してほしい
- 再申請でデータの利用期間を継続させてほしい
- 利用期間を1年程度に延長してほしい
- 他省庁所管のデータについても希望
- 地域情報の詳細化を希望
- 投稿、査読、再投稿などのプロセスに配慮した形での利用の環境を提供してほしい
- 予備的な分析のための抽出率の低いサンプルデータを希望
- 匿名化が難しい調査では、オンデマンド型のデータサービスを希望
- ミクロデータの使い方や分析の仕方についての講演を希望
- 目的に応じて、秘匿処理の項目を変えてほしい